

2020 年度事業計画書

自 2020 年 4 月 1 日

至 2021 年 3 月 31 日

社会福祉法人 こぼと会

あおぞら保育園

社会福祉法人こぼと会 あおぞら保育園 2020 年度事業計画

昨年度新たな理念のもと新しい法人の姿となるべく変革の年を迎え、職員一同理念を合言葉に保育を進めてきた。「イキイキ、わくわく」のテーマ設定はとても分かりやすく、子供の主体的な意思の尊重を高めるためにも非常に効果的であった。

昨年の事業計画にも述べたが「根拠にこだわることには一抹の不安が存在し、そもそも何のための根拠になるかが重要となってくる。そういった意味で、子どもの主体性をどう評価するのか、といった課題が生まれてきていることに対応するためにも、その主体性を言語化することが必要であり、それが「イキイキ・わくわく」となったわけである。」とあるようにまず、大人側主体からの脱却が少しずつ形に表れてきている。

今年度は、根拠を基にしつつも、いかに子供主体の観点で物事をとらえられるか、を一段と保育の中に落とし込んでいく。そのためには、子供の言葉の代弁機能が必要であり、子供の発達の観点からみた行動分析、その背景となる体の使い方等による根拠の確立を目指し、年間を通して研修を組みながら新しい保育の形を追求していきたい。

物事はすべて二律背反である。一つの行為もその意味の解釈一つでよい結果にも悪い結果にも見えるものである。二つの意味を理解したうえで考える力が法人の目標である。皆で力を合わせ、子どものために今何ができるか、しっかり思考しながら保育を進めていきたい。

1 施設運営

(1) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	備考
ひよこ組	0歳	3名	10名	
りす組	1歳	3名	16名	
うさぎ組	2歳	3名	20名	
きりん組	3・4歳	2名	27名	
ぞう組	3・4歳	2名	27名	
らいおん組	5歳	2名	27名	
ばんだ組	一時 定期	3名	10名定員 10名定員	

イ 健康管理

健康診断

0歳児 毎月

1歳児～ 年2回（4月、10月）

歯科検診 年1回（6月）

ウ 保 育

下記の内容を参考とし各クラスの保育のねらいが連動し、0～6歳までの子どもの脳や身体の発達に即した援助技術が、子どもの「イキイキ、わくわく」につながる実践を今年度の目標とする。

保育の基本方針

法人理念に基づいた行動がすなわち保育の基本姿勢である。「子どものために」をスローガンに謙虚に自分自身を洞察し、「知る」喜びを通して成長し合える職員関係を築くことが重要となる。

そのためにも、主観ではなく客観性を下にした根拠ある考えを中心に据え、例えば若い職員であれば、わからないことを具体的に質問したり、リーダー層であれば、相手のわかる喜びを引き出すためのヒントを出したりと、お互いが切磋琢磨できるための環境作りに努力し、それが子どもの最善の利益へ結びつくようにしていく。これが基本方針である。

◎ 0歳～2歳半までの保育

- ・ 担当制をとることにより人間形成にとって一番大切な愛着関係を深め健康で安定した生活を確立していく。
- ・ 子どもの脳や身体の成長変化の一番大きい時期である。それぞれの成長の特徴を理解したうえで、個別の配慮を第一にしなが、将来を見通した援助を心掛ける。
- ・ 子どもの内発的な動機を刺激するよう絶えず環境を見直し、安全性に配慮しながらもチャレンジできる遊具、用具を多く取り入れる。
- ・ 家庭との連携を密にし、24時間の生活リズムを考慮した対応を心掛ける。

◎ 2歳半～5歳までの保育

- ・ 言語の発達とともに多様な人間関係を通してコミュニケーションの土台を作る大切な時期である。特に、知的好奇心が多いに発露する時期であることから、室内、戸外での心を躍らせるような体験が子どもの成長を大きく進展させる。子どもの自己実現を後押しできるよう工夫を重ね、小集団での仲間づくりの達成感を味わえるよう配慮する。
- ・ 3・4歳児は混合保育とする。縦の関係を取り入れることで、一つの年齢の数を少なくすることにより、子どもの育ちの保証を保育者がしっかりと担うことが可能となる。また、あこがれとともに期待に胸を膨らませつつもじっとその時期を待つ状況を作ることにより、この時期に発達する抑制力に強く働きかけるようにする。
- ・ 3歳ごろから記憶を司る海馬の発達がとても活性化する時期と言われている。お

話やメモリーゲームなど覚えて楽しめる遊びを多く用意し記憶を刺激するとともにゲーム性を生かしたルールの標準化を図っていく。

◎ 5歳児以降の保育

- ・ 5歳児を過ぎた子どもたちは、自然と学びの態勢が出来上がってくる。また、過去から未来への時間的概念が育つことにより、子ども同士の共有性が一気に花開くようになる。集団もだんだんと大きくなり行事などの目標を持ちながら所属感を強くし、育ち合いの気持ちを整ってくる。こういったことを念頭に子ども同士で話しあう経験を多く持ち、協調と共同の姿勢を作るような保育を心掛ける。
- ・ 就学に向けて子どもの期待を膨らませながら、個々の課題を確認し競い合う楽しみや周りの友達をいたわる経験を多く積むようにする。

◎ 個別的配慮を必要とする子どものために・・・

- ・ 個人差を受け入れるために、その原因を追究するとともに、個人ベースでの配慮点を職員間で共有できるベースを作り上げることに専心する。
- ・ 感覚統合的視点や行動科学的な視点を取り入れ、子どもの立場に立った援助を職員で共有化し、仮説、実践、評価を繰り返しながら少しでも効果的な保育を追究していく。

子ども自身が達成感を得られるような配慮を一番大切なポイントとし保育に当たる。

☆各クラスのねらい

0歳児クラス

《職員》早い時期に担任、補助職員で話し合いの時間を持ち、危機管理や育児行為など、共通の認識をもてるようにする。
全員が安心・安全を心掛け、より丁寧に保育に当たれるようしっかりと対応していく。

《子ども》ベビーサイン、感覚統合など専門知識を取り入れ、子どもに合ったおもちゃや遊び、声掛けをしていけるよう、見通しをもった保育を心掛ける。そのため、発達表を目の付く場所に貼り、すぐに確認できるようにする。

《保護者》毎日笑顔で接するよう心掛ける。

子どもの成長を保護者と共有し、相談しやすい環境を作る。また、育児の困っていることだけでなく、楽しさを伝えられるように日々の保護者対応で信頼関係を築いていく。

1.2 歳児クラス

【子どもに対して】

- ・子どもの『イキイキ・わくわく』につながるよう、感覚統合、ABC理論、脳科学の考え方を取り入れた、発達に合った楽しい遊びや環境づくりを意識する。

【保護者に対して】

- ・根拠を持った働きかけでの子どもの変化ややりたい気持ちの表れに共感し、それを保護者に伝えることで子どもの成長をともに喜び合う。
- ・こころとからだの成長を共に伝えあい、一層の成長のための働きかけを共に考えていく。

【職員に対して】

- ・職員が互いに切磋琢磨していけるよう、対話を意識する。
- ・対話しやすい明るい雰囲気づくりのために、日ごろから保育での悩み相談室や子どもの成長を喜び合う会と称し、随時開催する

2 歳児クラス

〈子ども〉

- ・幼児への進級を見据え、生活リズムの共有ができる年間計画を作成する。
- ・玩具、壁面など、子どもの成長や様子を見ながら年間で計画する。
- ・子どもの遊びが広がるように、エビデンスに基づいた援助を展開していく。

〈職員〉

- ・職員だけでなく、補助職員とも子どもの対応や生活の中での細かい擦り合わせを含めた話し合いを定期的に行えるようにする。
- ・毎月の個人計画表の作成にあたって、補助表を活用する。

〈保護者〉

- ・保護者面談を活用し、家庭と保育園が子どもの姿など情報の共有や園での取り組みに興味を持てるように働きかけていく。

ぞう・きりん組

昨年度は、「交流」をテーマに、うさぎ組やらいおん組と関わる機会を作った。今年度は、内容を整理し、「計画性」と「目的」を明確にして行っていきたい。そのために、年間計画、月案の書式を変更し、情報の共有をしやすいようにしていく。また、保護者には、「透明化」をテーマに個人計画表の書式の見直し、園での様子の情報の共有の仕方を工夫していきたい。

TRY
<p>【子どもに対して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書式の変更(年間計画、月案、個人計画) 「分かりやすく！かんたんに！」をテーマに、職員で共有しやすいようにする。
<p>【保護者に対して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の透明化を目指す。保育園での様子を写真や動画、参観など通して、知ってもらい情報を共有する。 ・個人計画表を定期的に出し、情報を共有していく。
<p>【職員に対して】</p> <p>目的を持った交流を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぞう、きりん組 → 月案(4人で話し合いが難しい。残業 1.5 時間を活用していく。) <p>方向性を決める → 目的を決める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・らいおん組・給食室・うさぎ組→目的を持った計画的な交流を一緒に考えていく。 ・ファシリテーションのデザインシートを活用する

5 歳児クラス

【子どもに対して】

- ・研修を基に、学んだ事を保育に活かす。
島田療育センター研修を通し、専門的な視点から具体的な意見・アドバイスを生かす
- ・一人一人の個性を大切にし、保育の計画、実践、振り返りををしていく。
- ・自己肯定感を増やす機会を増やす・自己肯定感を増やす機会を増やす。

【保護者に対して】

- ・保護者の日々の変化や思いを受け止められるようにする(こちらから、面談などを提案する)

【職員に対して】

- ・対話をする為に【気づきノート】を使用する。テーマをや項目を明確にする。
- ・1日の振り返りの時間を作る。保育の方向性を統一していく。(昼礼の時間を作る)

【地域に対して】

- ・あおぞらルームとの交流
- 週1を目安にらいおん組と過ごす。具体的な活動として、公園に散歩に行く、1日らいおん組の日課で活動する。

・学童との交流

→施設を見学などを通して、学童という場所や雰囲気を知ってもらい就学を見通してもらおう。

地域事業

地域事業では、今年度も一時・定期利用保育、地域向け講座を中心に行っていくが、その場限りの場当たりのものではなく、長いビジョンで保護者の育成をテーマにしたニュー作りに取り組みたい

地域講座・・・今年度も NOBODYS PERFECT というプログラムを(6回の連続講座)
2クール行う。(保健師)

地域社会との連携

4月のさくら祭りでは、会場控え室として、園舎を提供する。

10月ハロウィンでは、多摩センター地区連絡協議会と連携を図り、年長児を中心に行事に参加する。

主な行事予定

4月 入園式、保護者懇談会

5月 遠足

6月 お泊まり保育

7月 プール開き、夕涼み会

9月 保護者懇談会

10月 運動会、ハロウィン行事

11月 遠足

12月 年長バイキング、子ども会

2月 保護者懇談会、新入園説明会

3月 お別れ遠足、卒園式

月例行事 誕生会、

エ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年 回

栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成

季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成

給食供給者としての諸管理

オ 安全管理

- 交通安全教育（ 4月予定 ）
- 非常災害時の避難訓練 毎月
- 引き渡し訓練の実施（ 9月 1日）

（2）職員の処遇

ア 職員構成（本園）

園 長	1名
副 園 長	1名
主任保育士	1名
保 育 士	18名
調 理 員	3名（栄養士含む）
保 健 師	1名
用 務 員	1名
嘱 託 医	1名（非常勤）
非常勤、パート	24名

イ 健康管理

- 健康診断 年 1回（ 4月）
- 細菌検査 年 2回
- 給食、0歳児調乳担当のみ毎月1回
- 保健健康委員の活動 毎月
- 保健師が中心となり、ストレスチェックなど職員の健康にかかわる取り組みを毎月行っていく

ウ 職員会議

- 定例会 毎月 1回
- 行事前打合せ会（随時）
- 研修会議 毎月 1回
- リーダー会 （随時）

エ 研修計画

- 島田療育センター作業療法士による感覚統合研修（年3回）
- 毎月園内研修会議を行う
- 外部研修での積み上げを職員中心にチームを組んで推し進めていきたい
- リーダー研修会議（可能性コンサルティング主催：法人研修）

オ 退職・福利厚生

- 福祉医療機構退職共済制度加入

- 東京都社会福祉協議会従事者共済会加入
- 健康検診受診
- インフルエンザ予防接種
- 職員のリフレッシュに伴う食事代等の助成（半額負担）

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

会計管理は、社会福祉サービスセンターと業務提携を結び、毎月の事務管理を協力して行う。労務管理は、多摩労務事務所と業務提携を行う。

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

保育システムを導入しており、出席管理など一元的に管理できるものは、省力化も含めパソコンを通してのデータ管理を行う。

保育については、ソフトを使った情報の収集を心がけ、事務の省力化と、仕事の可視化を目指していく。

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

毎月初日に安全点検を主任保育士、保健師立会いの下行う。

(3) 備品関係

ア 備品購入予定

適宜そのときの状況を鑑み、購入を検討

イ 保育用品購入予定

乳児・幼児のおもちゃを発達ごとの課題をしっかりと押さえていけるように積極的に購入する。特に、紙製、木製のものでは、痛み・損傷の度合いによりきれいなもの、子どもが扱いたいと思う観点から購入を進めていく。

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1回。必ず消火訓練(実地)を行う。

イ 防災設備の点検委託

年2回（内、届け出1回） 富士消防設備に委託

ウ 非常食糧の備蓄

○（全児童数＋全職員数）×3食×（3日）分